



Southeast Asia

Regional Network

# News Letter



宇都宮大学 国際学部・国際学研究科 同窓会 東南アジア支部 ニュースレター

Southeast Asia Regional Branch, Faculty of International Studies &  
Graduate school of International studies Utsunomiya University Alumni Association

Vol. 1  
September, 2017

\*\*\*\*\*  
**CONTENTS**  
\*\*\*\*\*

1. 創刊のご挨拶
2. バンコクにて決起会
3. 同窓生インタビュー
4. タイの昨今  
～教育事情 No.1～



## 1 宇都宮大学 国際学部・国際学研究科 同窓会 東南アジア支部 が発足いたしました！

国際学部同窓会理事会、大学院国際学研究科同窓会長の承認を経て、この8月13日に「東南アジア支部」が発足いたしました。東南アジア支部創設にあたり、学部同窓会吉葉会長、大学院同窓会土屋会長より温かいご助言、ご協力を頂きましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。併せて、同窓会より『東南アジア支部が、東南アジアでご活躍されている同窓生のハブとなり、連絡網の輪が広がっていくこと期待しています』とのメッセージを頂き、改めて東南アジア支部創設の意義や役割を再認識しております。

東南アジア域内では、国際学部同窓会設立当初より現在においても、多くの同窓生や元留学生が活躍しています。しかしながら域内に点在する同窓生同士、そして同窓生と大学間のつながりは、個人レベルに留まっており、更に今現在、各地に散らばった同窓生の消息追跡は困難を極めているのが現状です。そこで、同じ域内に点在する同窓生の点を線で結び、新たなネットワークを構築することを目指して創設されたのが、この東南アジア支部です。

東南アジア支部では今後、域内に在住する同窓生・元留学生の情報を収集していくと共に、同窓生・元留学生の活躍や、同窓会関連の交流会などの様子を取りまとめ、ニュースレターとして皆さんにお届けする予定です。

東南アジア支部の取り組みが、同窓会ネットワーク再構築の起爆剤となることを願っています。

(発起人：国際学部社会学科・国際学研究科 1期同窓生 大畑美優紀 / 栃木県出身/タイ在住11年目)

## 2 タイ・バンコクにて 東南アジア支部決起会を開催！

8月11日、マリー先生ご来タイの好機に恵まれ、バンコクにて、マリー先生を交えた懇親会、併せて東南アジア支部創設決起会を行いました。今回参加頂いたのは、タイでご活躍する同窓生 原理恵さん(社・院4期生/東京都出身/在タイ12年目)と谷澤壮一郎さん(社・6期生/滋賀県出身/在タイ6年目)のお2人です。東南アジア支部の助っ人となるべくお2人ですが、谷澤さんは来年度からインドネシアに活躍の場を移されるとのことですので、東南アジア支部“チーム・インドネシア”の盛り上がりに一役買ってくれることを期待しています。また、お2人はマリー先生との再会は卒業以来とのことでしたが、時の流れを全く感じさせず、宇大在学時代のこと、仕事やタイ社会の話題など幅広い話に花を咲かせました。懇談会を通して互いに結束が感じられた、そんなひと時でした。次回はカセサート大学に留学されている宇大生を交えた懇親会を開催予定です。



左から、谷澤さん、原さん、マリー先生、大畑



域内在住のみなさんへ



ニュースレター編集係(大畑)  
searbafis@outlook.com

◎東南アジア域内在住同窓生・元留学生在住情報・ファンクラブの皆様へ名簿登録のお願い

以下のURLかQRコードからご自身の情報をご登録ください。

<https://creativesurvey.com/ng/reply/5dee973a4d5e822f9910e38cf2e2c7/>

◎編集係まで情報をお寄せください

■同窓生・元留学生関連懇談会 ■同窓生・在校生に役立つ各国イベント情報等々





\*Profile\*

Sumitomo Corporation Thailand  
Sumi-Thai International Lim

本間 みずほ

Mizuho Homma

- 青森県出身
- タイ在住17年目
- 国際社会学科卒
- 3期生（田巻研究室）

### タイを滞在先に選んだ理由やきっかけは？

タイを滞在先に選んだのは、大学時代に一番情熱を持って取り組んだのがタイに関わる事だったからです。タイとの出会いは大学入学後でした。高校時代の担任の「これからは輸出入の仕事にはタイ語なんか良いよね」という何気ない言葉が頭の中のどこかに残っていて、折角勉強するなら珍しい言語をと思い、当時全く馴染みの無かったタイ語を第2外国語として受講しました。それがきっかけで大学3年から1年半カセサート大学に国費留学、その間現地のNGO団体（シーカーアジア財団）にてインターンもさせて頂きました。当時、「タイに関わる仕事がしたい＝現地へGo!」という若さと勢いだけで、卒業後直ぐに現地の日系人材派遣会社を通して日系企業へ就職し、現在に至ります。

既に在タイ17年目になりました。

### 現在のお仕事も含め、日々の生活は？

卒業後4年間は日系医療機器製造企業で通訳・翻訳業に携わっていました。毎日アユタヤまで社車で通勤、終日行われる社内会議や現場での通訳にてんてこ舞

いの日々でした。留学していたとはいえ、私のタイ語は全く仕事で使えず、毎日勉強させてもらっていたと言う感じでした。その後、留学時代の仲間のご縁で現職の住友商事タイ支社にて総合職をしています。取引先の工業団地（他県）への国内出張が多く、たまに海外出張もあり、タイ語以外にも英語や正しい日本語コミュニケーション力の必要性を感じています。業務内容は多様で多忙ですが、最近では健康維持のためにヨガやピラティスのスタジオに通ったり、語学学校に通ったりして、仕事以外の分野へ割く時間も大事にしています。またバンコクは世界各国の人が集まりお洒落なレストランも沢山あるので、週末は仲間と情報交換も兼ねて食事をする事も楽しみの1つです。



部署集合写真

### 海外で働く醍醐味とは？

「朝起きて会社に行って夕方帰宅する」というリズムは日本にいても同じだと思いますが、日本には無い風景を毎日目にする事で、ワクワクしたり色々な発見があります。また、現地で起業している方や様々な業種の日系企業の方達と知り合う機会が多く、貴重なお話を伺える事が出来るので刺激を受けます。人と人の繋がりで転職のチャンスに恵まれる事も。バンコクは日本人だけではなく、世界各国から

人が集まる場所なので、自分から飛び込めば多文化に触れられる環境が整っており、地理的にも近隣諸国への移動（旅行）にはとても便利なので、仕事とプライベートの両方を思い切り楽しんでいる人が多い印象です。新しい分野への興味や世界観も広がしやすい環境なのでは？という気もしています。

### 同窓生、在校生、先生方へメッセージを！

自分以外の外の世界に興味を持つ事、行ってみる事、触れてみる事、実際にやってみる事、それを大学在学中に経験させて頂き、大変恵まれていたと感謝しております。チャンスが目の前にあっても、少し不安があってもなかなか進めないという在校生の方達も、まずは一歩、踏み出してみたら、世界はあっという間に変わって行くと思います。私はどちらかと言うと、石橋を叩いてもなかなか渡れない方だったので、学生時代ももっと積極的に興味を持った事にトライすれば良かったと後悔していた時期もありますが、それはこれからでも遅くない！と、色々思いを巡らせている最中です。宇大で学んだ事、経験した事は間違いなく今の自分の肥やしになっています。先ずは体が資本ですので、健康第一で、そして何事も楽しんで取り組めたら本望ですね。



ネパール旅行

## \*タイの昨今連載コラム\*

### -第1回- 教育事情

この春6歳を前に通常より1年早く小学校に入学した息子。新学期5月半ばスタートのタイでは公立校に入学する場合は5月14日までに出生していなければなりません。私立校によっては3年間の幼稚園教育が修了していれば息子のように6月生まれでもお受験にパスすれば入学を許可してくれる学校もあります。バンコクをはじめ都市部の私立校では幼稚園からタイ語普通コースの他、EP (English Program) コースを併設し、併せて中国語教育も盛り込む学校がほとんど。2015年のアセアン共同体発足後、ますます英語教育は重要視され、目指すはシンガポール！そんな勢いを感じます（現にシンガポール教育方式を謳う学校が多く目につくようになりました）。このような教育内容の高度化に伴い、教育費も幼稚園を筆頭に年々高騰化傾向にあります。そこは世の常、時代の流れに乗り遅れないように、お友達に後れを取らないように

### タイはスパルタ教育!?

と親はせっせと子供に投資するのであります。

さて、息子の所属する学校は、クリスチャン系の小中高一貫校。Modern Language Program (MLP) と EP コースに分かれ、息子が学ぶ MLP 男子クラスはひとクラス49人。授業は教科担任がそれぞれの授業を受け持ちます。1日7時間目までであり、1週間の教科数は20科目。英語、中国語はもちろんのこと、英語で英語、算数、理科、社会を行う授業まであります。入学して2か月目にして掛け算九九に突入しました。思い起こせば、年長さんです。3ヶ月の足し算引き算をやっていたから、日本の公立校に比べると1年程前倒しの授業内容でしょうか。放課後や土曜日は、有料の教科補習、芸術、スポーツなどの課外授業も開講されている熱心さ。課外授業が終わる夕方6時でも、校内は



▲ワンクルー（先生に感謝する日）に先生に贈る花飾りを掲げて

まだまだ多くの生徒でにぎわっています。とにかく勉強する内容がもりだくさんの息子の小学校時代。果たして息子はどんな大人になるのだろうか…あぜ道を駆け回って探検ごっこ三昧だった自分の小学校時代を思うと何とも複雑な思いを抱く、今日この頃。（大畑）